



**全国植樹祭に TSUYAMA FURNITURE が出展！**  
5月26日(日)にジップアリーナ岡山（岡山市）で開催される「第74回全国植樹祭」に出展し、全国にPRします。  
TSUYAMA FURNITURE ホームページはこちら→



津山の人・物・技術  
など、明日誰かに自慢  
したくなる津山のいい  
ところを紹介します

40  
つやまじまん

ええとこ  
いっぱい

津山 自慢

グッドデザイン賞 2023 を受賞  
TSUYAMA FURNITURE  
—津山家具—

美作地域のスギやヒノキの良さを広めようと、市内の木材加工企業5社で運営する家具ブランド。立ち上げの経緯や美作産材の魅力、地域の森林や木材産業への思いを、運営に参加するイマガワ代表取締役の赤松洋一さんに聞きました。

高品質な地域の木材を生かす

津山市の面積の約7割は森林で、多くは植林されたスギやヒノキなどの針葉樹です。津山市を含む美作地域は、国内有数のスギとヒノキの産地で、耐久性、香り、美しい木目などの点で品質が高く、「美作杉」「美作松」と呼ばれ、主に柱などの建築材に使われています。しかし、木材の価格低下や林業に携わる人の高齢化・後継者不足で、放置される森林が目立つようになり、地域の木材をもっと活用して森林を守っていくと、2019年にスギ・ヒノキの風合いや美しさを身近に感じてもらえる家具の開発を開始。同じ思いを持つ5社（イマガワ、すえ木工、高橋工芸、津山銘木、松永建材店）がつやま産業支援センターを通じて集まり、2021年、TSUYAMA FURNITURE（津山家具）が誕生しました。

針葉樹の魅力を引き出すデザイン

美作杉・美作松の魅力である美しい木肌を生かすため、シンプルで優しい曲線、思わず触りたくなる形をテーマにしています。やわらかな雰囲気、どんな空間にも自然に溶け込んでいきます。家具の素材には、硬い広葉樹が

使われることが多く、軟らかい針葉樹はあまり使われてきませんでした。津山家具では、木材同士の継ぎ方を工夫して耐久性を持たせています。傷が付いても表面を削って修理し、何十年も使いつつ色艶や風合いの変化も楽しめられます。



輪を広げ、長く続けていきたい

未来に森林を残すためには、林業・製材・加工に携わる人とお客さんが、誰も損をせず豊かさでつながることが必要です。間伐や枝打ちが行き届いた良質な木材を適正な価格で入手し、無駄を出さない製材や端材まで活用する技術を高め、お客さんに喜んでもらえる製品づくりを続けていきます。

グッドデザイン賞の受賞は、津山の木材の品質と加工技術の高さ、森を守る取り組みを全国に知ってもらったきっかけになったと思います。市内のデザイナーや他の木材加工業者に加わってもらったなど、津山市全体に取り組みの輪を広げていきたいです。

つぶき  
やまき  
編集室

津山自慢の取材で訪問したイマガワで、製品になる前の板材を見せてもらいました。美しい木肌と木の香りに、触れたい気持ちで自然と湧いてきました。展示会で触り心地を確かめる人も多いそう。柱や建具の素材として身近なスギ・ヒノキだからこそ、手触りや匂いを知りたくなるのかもしれないね。

3月から4月は出会いと別れの季節。別れはちょっぴり寂しいですが、進学や就職など、新たなスタートを切る人も多いのではないのでしょうか。引っ越しなどの予定がないわたしは、少しでも気分を一新させるため、服や雑貨などの断捨離を決定中。すっきりとした気持ちで、春を迎えたいと思っています。

今年の津山城のさくらまつりでは、本丸から高所作業車に乗り、上空から桜を見渡すイベントがあります。眼下に広がる一面の桜はどんな景色でしょうか。子ども頃から毎年訪れている津山城。新しい角度から見ると、とても楽しみです。今年度もたくさんの方の魅力を皆さんにお伝えできるよう頑張ります。